

更科源藏(さらしなげんぞう)  
●1904(明治37)年、弟子屈町熊牛原野(南弟子屈)に生まれ、1985(昭和60)年に81歳で逝去。東京麻布獣医学校を中退した後、尾崎喜八、高村光太郎に師事し、詩作を中心に郷土史、アイヌ文化研究など主に文学活動を行った。  
▶弟子屈町で所蔵しているさまざまな資料を紹介する。

著書の検印などに使っていた自作のエゾシカ印



「ポエジイ」に改題至上律(第2次)の号数を引き継いで8集としている



至上律(第3次)9集~11集(12集未所蔵)

## 「ポエジイ」から「至上律(第3次)」

詩と評論の雑誌「至上律」は、次のような経緯をたどっています。

▼第1次 / 詩誌「港街」を1928(昭和3)年2月、4集で休刊し、その号数を継承して同年7月に5集から発行。1929(昭和4)年11月の第12集で廃刊。

▼第2次 / 1947(昭和22)年7月、青磁社から第1集を発行し、1949(昭和24)年2月、第7集を発行。戦時中から札幌で出版事業をしていて「至上律」の発行元であった青磁社が、戦後の出版状況の好転から東京へ移転。誌名を「ポエジイ」にし、号数を継承して8集として1951(昭和26)年2月発行。

▼第3次 / 1951年10月「至上律IX」を復刊。資金不足から1953(昭和28)年8月「至上律XII」で廃刊。

「ポエジイ」の編集と併せて1951年の年の初め、東京在住の「至上律」編集委員が集まり、新たな編集内容などを話し合っています。「ポエジイ」の編集後書きで真壁仁は「日本の現代詩のオーソドックスをきざこうとして…出発した。…諸般の情勢は本誌に脱皮と飛躍の必要をせまってきた。…本誌は第二期活動に転進しようという深い

決意から編まれ…」とし、新たな「至上律」は「さらに活発に詩人の社会的な活動展開に主動力となって働きたい」と思っている。何よりも日本の現代詩の権威ある指標をきざぐため使命を達したい」と編集方針を語っています。

「至上律(第3次)」は、出版社の援助は得られず、詩人たちの独力で発行することになったのです。季刊(年4冊)・定価1冊100円で、季刊分400円を300円で募集を予定して出版しました。代金1年分を前納した人を会員とし、会員で無名の人でも優れた作品であれば誌面に掲載する、という広告を載せ、会員拡大に努力をしています。しかも「至上律」に掲載する作品や評論の原稿料は、無償で協力してもらっていました。それでも赤字で発行は遅れ、印刷屋の採算を度外視した協力で出版を続ける状態だったのです。

「至上律」という誌名は創刊(第一次)したときに、ベルギーの詩人ヴェルハランの詩集から高村光太郎が命名したのですが、更科がこの誌名にこだわったのは、ヴェルハランの作品の底辺に流れている人間を賛美する人間主義、博愛主義に相通するところがあつたらでしようか。

みんな集まれ!

## 第9回子どもフェスティバル

楽しいイベントがいっぱいだよ!

毎年恒例となった「子どもフェスティバル」を、9月に開催します。

今年も、北海道教育大学釧路校の先生と学生の皆さんが遊びに来てくれることになりました。

子どもたちはもちろん、お父さんやお母さんも一緒に楽しみませんか? 皆さんのご来場をお待ちしています!

▶日時 / 9月1日(土) 10時~14時

▶場所 / 町公民館

▶内容

- 折り紙&ペーパークラフト
- 伝承遊び
- 手作りおやつ
- ネイチャークラフト
- 乳幼児コーナー
- その他楽しい遊びなど
- 北海道教育大学釧路校によるコーナー
- 歯ピカ表彰式(13:30~)

※対象者の方には、事前に保健福祉課健康推進係から事前にご案内します。

当日は、ワゴン車で送迎を行います。(事前の申し込みが必要です)

乗車希望の方は、乗車時間や停留所などを子どもフェスティバル実行委員会にお問い合わせください。



昨年のフェスティバルの様子

1日遊んでいく方は、お弁当を持参してくださいね。冷たい麦茶(無料)は用意してあります。

問い合わせ先 / 弟子屈町子どもフェスティバル実行委員会 ☎ 482-5667 (役場子ども未来課子育て推進係)



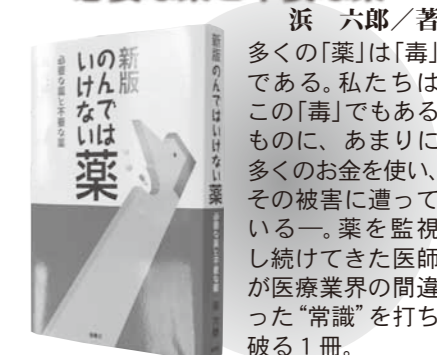
図書館だより

中央2丁目4番1号  
☎ (よいほんいろいろ) 482-1616

### 新刊案内

- 「極貧!セブンティーン」 黒野 伸一 / 著
  - 「カドが立たない断りメール 謝りメール」 木山 泰嗣 / 著
  - 「麺のおつまみ」 おの みさ / 著
  - 「これが好き!ニッポンの歌」 ニッポンの歌編集部 / 編
  - 「屋山太郎が読み解く橋本改革」 屋山 太郎 / 著
  - 「ドレスを着た男子」 デイヴィッド・ウォリアムズ / 著
  - 「いつもの下着&なでるケアで 美ラインになる!」 かなつ久美 / 著
  - 「冥王星を殺したのは私です」 マイク・ブラウン / 著
  - 「怖い女」 ゴマブツ子 / 著
  - 「イエナカ菜園 室内ではじめるキッチンガーデン」 鈴木あさみ / 著
- たくさんのお待ちはお待ちしています!

### 新版 のんではいけない薬 必要な薬と不要な薬



おすすめの最新刊

浜 六郎 / 著  
多くの「薬」は「毒」である。私たちがこの「毒」でもあるものに、あまりに多くのお金を使い、その被害に遭っている。薬を監視し続けてきた医師が医療業界の間違った「常識」を打ち破る1冊。